

# 糸を染め、糸を組み、 色合わせに時を忘れる。

奈良・飛鳥時代に  
中近東からシルクロード、  
中国大陸を経て  
伝来したという「組紐」<sup>くみひも</sup>。  
日本の生活様式の中で磨かれた  
手組みの技の創作を、  
主婦として暮らす時間の中で  
楽しんでいる人がいる。



私の GALLERY  
組紐



素材となる糸をみずから染め、手組みで見事な組紐を作っている伊嶋照子さん。その作品はみやびで美しい。しかし意外にも伊嶋さんは、「子供の頃から、超が付くほど不器用だった」という。

伊嶋さんは、20代の頃、江戸時代から続く老舗「道明」の組紐を見た瞬間、魅了された。そして、大学勤務のかたわら、夜は「長沼静きもの学院」に通い、組紐作りの基礎を習った。その後、憧れの道明さんから、より奥深い技を習得できたことも幸せだったと話す。

自然界の色をお手本に、生糸を染める。木の枠に糸を掛けて巻き取り、組む紐によつて長さを径(へ)きる。台に糸を付け、組んで、ふさ付け。伊嶋さんは、この工程をひとりこなす。

「染めた糸を100種類ほど並べて、色の組み合わせや配合、柄などをあれこれ

考えていると、夢中になって、時間を忘れてしまいます」

伊嶋さんが考案した帯締めめに、組み合わせによって何通りも楽しめる「中継ぎの紐」がある。左右で色が異なる個性的な趣が、和装を粹に彩り、しかも、手で組んだ帯締めは伸縮性があり、一度締めたら緩まないという特長がある。

手組みの組紐に、ぜひ触れていただきたい。秋田市大町イーホテルショッピングモール「秋田最良」に、伊嶋さんの作品が並べられている。

「たとえば、私の作品を持っている方が、それを10年後にでも取り出した時、思わずほっこりしてしまうような嬉しさを感じていただけたらと思うんです」



TERUKO ISHIMA

いと  
糸のや主宰 (秋田最良内)

## 伊嶋 照子さん

秋田市寺内油田2丁目11-7  
TEL.018-864-7809

※糸のやでは組紐の携帯ストラップ創作体験を行っています。ご希望の方は秋田最良 (TEL.018-853-7470)までお申し込みください。

